

2025年万博基本構想検討会議  
第2回 理念・事業展開部会 議事録

【開催概要】

1 開催日時 平成28年9月6日(火) 14時30分～16時00分

2 場 所 大阪府庁本館3階 特別会議室大

3 出席委員

<有識者>

江原委員、澤田委員、渋谷委員、玉井委員、増田委員

<行政>

伊吹委員(代理出席:井上博覧会推進室長)、

田中委員(代理出席:坂本経済戦略局理事)

<経済界>

出野委員(代理出席:野島産業部長)、児玉委員

齊藤委員(代理出席:與口企画調査部課長)

【議事次第】

(1)今後の進め方について

(2)これまでの検討経過を踏まえた基本構想府案とりまとめに向けて  
(基本理念・テーマ等)

【配布資料】

資料 1:今後の基本構想府案のとりまとめスケジュール

資料2-1:基本構想府案 構成項目(案)

資料2-2:理念・事業展開部分 検討状況

資料 3:欠席委員からいただいたご意見

【内容】

○事務局

事務連絡、配布資料の確認

○澤田部会長

澤田でございます。では、今日の議事を進めていきたいと思っております。それでは議題1の「今後の進め方について」ということで事務局から資料説明をお願いします。

○事務局

資料1「今後の進め方について」の説明

○澤田部会長

はい、ありがとうございました。確認ですが、理念部会2回目なんですけども。当初のお話としては、第1回で理念・事業の内の「理念・テーマ」について、主に意見をいただき。第2回目は、「事業展開についてご意見をいただく」ということで、当初ご案内をさせていただきました。それが変わっているという認識でいいんですね。

○事務局

はい。

○澤田部会長

それが今日は、「事業展開」ではなくて、議題2のところでは皆さんの意見を踏まえた案があるので、それについての意見を今日再度述べていただければというお願いだという理解でよろしいですね。

○事務局

はい。

○澤田部会長

それとすみません。第3回全体会議で、中間報告案とありますが、議会にお諮りする案を事務局としての取りまとめた案だと理解していい訳ですね。

○事務局

はい。

○澤田部会長

そういう前提でございます。何か進め方について、私も事務局にいろいろと根掘り葉掘り聞きますので、皆さんも「あれ」ってことがあるかと思いますが、ご質問等いただければと思います。気持ちよくご意見をいただきたいなと思っておりますので。いかがでございましょうか。よろしいですか。それでは、議事を進めながら「これは、どうなっているんだ」ということがあれば、ご質問・ご発言いただければというふうに思っております。当初からこの検討会議というのは、皆さんからご意見をいただくということで、何かを決めようということではないので、これで賛成とか、反対とかいうことではございません。今日、示される案も「なんで私が言った意見が入ってないの」とか、そんなことも含めて率直なご意見・ご感想をいただければというふうに思っております。今日出された意見をまた踏まえて、第3回の資料を作られるという理解でよろしいですね。

○事務局

はい。

○澤田部会長

分かりました。ということでございまして、議事の2ですね。これまでの検討経緯を踏まえた、基本構想府案、取りまとめに向けての基本理念・テーマなどというところでございます。資料がお手許にございますので、事務局の方から内容ご説明いただければと思います。

○事務局

資料2-1「基本構想府案 構成項目(案)」

資料2-2「理念・事業展開部分 検討状況」について説明

○澤田部会長

ありがとうございました。なかなかボリュームが多いので、事務局から事前にお渡ししていますが、ちゃんと読めてない方もいらっしゃるのではないかなというふうに思います。みなさん、どうでしょうか。気になる点、ご感想等。では、江原さん、お願いします。

○江原委員

私も何度か読ませていただきましたが、大変よくできているな、よくまとまっているな、というのが第一印象です。私、調査関係の仕事が長いものですから、どうも、てにをはが気になってしまうのですが、資料でも気になりました。この場でいうほどのことではないとは思いますが、若干指摘させていただきます。それと、われわれ関係者にはわかることでも、若干手直しをした方が、より分かりやすくなるかなと思った点について、話をさせていただきます。

まず、7 ページの「知の結集」のところで、「健康への挑戦」という表現がありますが、2025 年の大阪万博のテーマが、「長寿への挑戦」ということで、挑戦するのは、健康と長寿のうちどっちなのかと、混乱するのではないかと思います。ここを、例えば、「<長寿へのメッセージ>を発信」とか、そんな形にしたらより分かりやすくなるのではないかと感じました。

それから、6ページですが、3つ丸がありますね。内容は参考になるのですが、その内容と、上の図との関連性がピンとこないと感じました。「参考」と書いておいたらいかかかを感じました。

8ページですが、「具体的展開分野例」のところですが、これら 5 点は、それぞれ、展開、提案、紹介のいずれかで括れると思います。展開、提案、或いは紹介という2語のいずれかを、これら文章の後ろに付けると、メッセージが伝わりやすくなるのではと思いました。例えば、「健康になる街づくり」の提案、2番目は提案とあるのでそのまま。3 番目は「芸術の可能性」の紹介でしょうか。4 番目と 5 番目は紹介となるのかなと思いました。細かいことをいって恐縮ですが、その上の(4)の文中にある「未来を担う若者の関心をひく博覧会」のところの、「自分らの未来は明るい」のところですが、自分らのというのは子どもたちのことをいっているのだから、「わたしたち」としたらいかがかなと思いました。

12 ページですが、下から3行目の「愛知県と比べて会場 100 km圏内の人口比は 1.57 あり」となっていますが、1.57 倍とすると分かりやすいのではと思いました。私が不勉強なのかもしれませんが、1.57 の意味がすぐにははっきりしませんでした。

それから、前に戻り、1ページの「基本理念」のところですが、QOLとかAIとか、IoTについては、ここで、カッコ書きで、生活の質、人工知能、モノインターネットと付記しておいたほうが読者には親切と思いました。AI と IoT については、後のページで人工知能、モノインターネットと付記されていますが、QOL については、それがなかったかと思います。

それから、3 ページですが、ちょっと悩んだところなのですが、「大阪を含む関西圏の平均寿命が全国平均を下回る」といった表現をされていますが、ちょっと言い換えたほうがいいのではないかと感じました。後ろにも出てくるので、ここで変えると、後ろも変えることになりますが、これでいいという強い意見と理由があれば、あえて変えたほうがよいとはいいいませんが、もっとほかに前向きな表現があってもいいのかなと思いました。

最後に5ページです。「基本理念に基づいたテーマ案の考え方」の最後の一文の歯切れがわるいと思います。「明るい未来のメッセージとなるであろう」ではなくて、例えば、「明るい未来のメッセージとなるようにしたい」したほうがよいと思います。細かいことをくどくどいって恐縮ですが、以上です。

#### ○澤田部会長

ありがとうございました。大変、資料をよく読んでいただいている成果が良く見えたご発言でございましたが、いかがでございましょうか。他の委員の先生方は。はい。増田さん。

#### ○増田委員

資料を見させていただき、すごく大きなところから小さいところへと絞り込んでいるまとめ方や日本でやる意義からまた大阪・関西、大阪がやる意義へとまとまっていくすごく読みやすいなと思いました。特に事前に打ち合わせでいただいたものよりも、今いただいたもののほうがインパクトが大きいと感じたのは、7ページにありますめざす万博のイメージというところです。来場者が主体となって参加でき、実際に健康になる万博って、私はこれがすごく気に入りました。1ページから健康になる博覧会という言葉にインパクトがあります。これまでの万博「珍しいものを見る」というイメージでしたが、これからは問題提起して関心を持ってもらって積極的に参加する万博にしたいというテーマがよく分かり、この健康になる博覧会っていうのがピタッと腑に落ちるような感じがしました。だから、この7ページのところをもっと実際に健康になる万博っていうことを強くうたってもいいのではと思いました。事務局の今の説明の中で今日話し合わないといけないのは、これから事業展開していく中で企業にどう関心を持ってもらうかっていうところが大きいですよね。これは私もどうしたらいいか考えがまとまっていませんので、他の委員の先生方の意見を聞きながらこのところを絞り込んで発言したいと思います。以上です。

○澤田部会長

ありがとうございました。他の方はいかがでございましょうか。はい。玉井さん。

○玉井委員

私の率直な感想ですけども、本当に事務局の方はよくまとめておられるかなと思いました。普通でいう5W1Hがちゃんと入っていて階層別で見やすい。なぜ日本で、なぜ今やらないといけないかと場所であるとか時間の流れとかですね、本当にうまく網羅されていて以前のものよりも格段に見やすくなったと思います。それで今までの部会で出てきたことも全部取り上げていただいて、若者に希望を抱かせるようなところであるとか、いま増田さんがおっしゃったような本当に健康になるということがちゃんと明記されていて本当に好感を持ってました。作業は随分時間がかかったと思いますが、お疲れ様でございました。私は細かいことはわからないですけど、この前、新聞に出ていました経済界が少し腰がかちゃんと入っていないというようなことが書かれていましたけども、その経済界の方をどう納得させるのかというところの視点を少し盛り込んだ方がみなさんが動きやすいのかなという感じがしました。基本はみなさん賛成だと僕は受け取っていますけども本当にどういう形で自分たちに還元されるのか、そういうところを少しみなさんがわかりやすい形にして、出した方がいいのかなと思いました。

それとみなさんわかりやすく納得させるためにイメージ図みたいなものが早く欲しいのかなと思うんですよ。パッと2、3枚見たらこういうことをめざしているんだと実際にこういう仕組みが実装されて、ここの社会のここに行ったら私たちはこういう姿を見れるんだみたいな。例えば、前にも言いましたロボットがたくさんあったり、豊かな生活をお年寄りがいてる様子だとか、近くで若者が未来のことを楽観している様子だとか、パッと見たらわかりやすいイメージみたいなものを専門の方に作っていただいて、これはという見せられるものが何枚かあれば本当に進みやすいのかなと思いました。以上です。

○澤田部会長

ありがとうございました。より企業の方を含め、一般の方にもイメージが把握されやすいようなものがあるといいなということだと思います。次は渋谷さん。

○渋谷副部会長

他の委員の方と一緒に事務局の方、いろんな意見をうまくまとめていただいてありがとうございました。中谷先生の意見と重なるところがあるのですが、やはり出だしのところはあまりにネガティブなので、先程の少し大阪が悪いとかと同様に少し全体としての世界全体は健康になりながらもさまざまな問題が出ているというバランスを取った書きぶりの方が入ると思いますし、ある程度ポジティブな大阪をてこにポジティブに世界全体でやっというメッセージを最初に出した方がいいので不都合な真実というか、なんとなくメッセージ的に実際に高齢者のQOLが著しく低下していることもあるし、そうでないこともあるので、バランスを取った書き方をお願いしたいのとそれから後は日本とか大阪とかそうしたところも含め、英語案をもう少し意見を頂ければありがたいと思うの

ですが、Our Health Our Future というのは比較的シンプルですし、わかりやすいのかなという気がするので、私としてはこうシンプルでわかりやすいメッセージをどんどん出していけばいいのかなと思います。かなり意見交換もしてここまでまとめていただいたので、今のところ私としてはここから先は最後つめていただいて、いま挙がっている意見を取り込んでいけたらなと思っておりますが、かなり時間がタイトなので今回、次回である程度まとめることができればと思っております。宜しくお願いいたします。

○澤田部会長

ありがとうございました。他の方はいかがでございましょうか。はい、どうぞ。

○齊藤委員(代理: 與口企画調査部課長)

関西経済同友会の與口と申します。本日は齊藤の代理でまいりました。一点だけ、5ページの英語の仮題ですが、ジャスト・アイデアです。Our health, Our Future で our を使われているが、your でもいいのではないかと思います。Your health, Your future で技術的にも、マスとしての健康を挙げるというよりも、一人ひとりの暮らし、Quality of Life を挙げるのであれば、yourの方が届くのではないかと思います。単なる感覚の問題であるが。あともう一点、その前提として1ページ目の基本理念のところ、7行目、「健康格差はかつてなく増大している」という認識があるのであれば、最先端の技術でもそれを使える人と使えない人がいるということですから、一人ひとりに届けるということになると思います。最先端のものを作り出す技術ということと、それをみなさんに届けるというのは違いますので、そうすると参加の間口が広まっていきますから、ステークホルダーたりうる企業の数が増える可能性が高まるのではないかと思います次第です。以上です。

○澤田部会長

はい、ありがとうございます。他の委員からはどうでしょうか。野島部長にご発言いただいて、よろしいですか。

○出野委員(代理: 野島産業部長)

出野の代理で出席させていただいております。理念のところとか本当によくまとめていただいていると思いますが、ちょっと何か感覚的なものとして、健康というのがどんなイメージで捉えられるのかな、というのが少しちょっと。これだと、病気じゃないような暮らしをするというような感じに取られるのですが、色々と障がいを抱えられた方もいらっしゃるわけで、病気かどうかということだけじゃなくて、色んな障がいを持っていても、いきいきと暮らせる社会をつくっていくとか、そういうイメージが、病気を持っていようが、障がいを抱えていようが抱えてなかりうが、いきいきと暮らせる、しかもどんな世代の人も、どんな国の人であっても暮らせる、そういうものがこの万博で一つのモデルが示される、それがこの万博が終わった後も、大阪の湾岸のエリアでユニバーサルデザインのまちづくりができていって、それが地方創生の一つのモデルにもなる。国の実験の場にもなる。それはひょっとして整備等部会に関わるかもしれないが、この先にあるものとか、そういうことも含

めて。それから、健康というものをどう捉えるかという、その辺をもう少しはっきり出ればいいのかという感じがしました。最近、関経連でも、ワールドマスターズの話などもやっていますが、やはり議論している中でも、健常者だけじゃなくて、いわゆる障がいを抱えた方も楽しめるようなということを、団体の方から言われることも多いので、そういう部分をどう反映していけるのかなというところが、ちょっと薄いのかなという感じがいたしました。以上です。

#### ○澤田部会長

はい、ありがとうございます。前に部会の中で、健康の定義について WHO の定義を出させていただきましたが、確かに基本理念の1を見ると、人間の内なる健康の話に終始している気がします。そういう意味で言うと、もう少し WHO の健康概念というものに沿った形で書かれるのがよいのではないかなというご意見だと思われま。そういう意味で言うと、テーマ案のところで英語に長寿という言葉がないが、日本語に長寿という言葉があって、すぐ指摘する人が出てくるのではないかなと思っているのですが。英語に従うと、「人類の健康とその未来」といった日本語のテーマになるはずですが、どちらがいいのかなという気もします。その辺りについて、英語で長寿という部分を外している理由があれば、また英語にあわせて日本語を直してみようということもあるのではないかと思うのですが。事務局の方で何か少しご意見を。

#### ○事務局

これはあくまで仮題という形で議論のたたき台という形でご覧いただければと思っています。ただ仮題という形で出させていただきましたのは、今までの議論の経過の中で、日本語としてのアプローチとそして英語としてのアプローチは別物と考えた方がいいと。そして我々は今、長寿という言葉の中には、人生の生き方、いきいきと暮らせる社会、都市のあり方、その広がる可能性を含めた概念であるということ捉え、案としてシンプルでわかりやすい、Our health, Our future という頂いた案を記載させていただきました。長寿という意味は、health と future の二つを重ねることによって、英語として伝わるのではないかと考え、仮題として置いた次第です。存分に感じられたことをこの場でご意見いただきましたら、我々はそれを参考にどういった形がよいのか探ってまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

#### ○澤田部会長

はい、ありがとうございます。中谷先生のご意見でも、最初の基本理念の一項目のところは見直した方がいいよということが出ておりますが、前にもご紹介しました BIE の 97 年の変更からすると、人類的課題の解決のための、ということなので、あまりポジティブに明るい話を書いてしまうと、それは問題ではないですよという話になりかねないなと。中谷先生のコメントでの感覚はよくわかるのですが、そう書いたときに「では何が問題なの？」という話にならないかなあ、ということが私は気になるので、中谷先生はこのように書かれていますが、私としては何が問題なのかということをはっきり出した方がいいと思います。ただ、人間の病気だとか健康だとかということを超えた WHO の定義に従った上で何が課題なのかをきちっと書くということが大事だと思われま。そこ

が今説明のあったような健康とか、長寿とかという問題とどうつながっているのかということがストレートにつながると、そこは非常に説明がしやすくなるのではないかなと、みなさんの意見を聞いていて、思いました。

商工会議所の児玉委員から、ご発言いただけると。

#### ○児玉委員

先ほど玉井委員から経済界は少し腰が引けているのではないかというご指摘がありました。これはたぶん9月1日にありました五者懇といわれている、経済3団体と大阪府、大阪市のトップの会合のことだと思っております。そのときに経済界から出ましたのは、直接この内容に関係しない面もありますが、要するに今まで大きなプロジェクトをやるときは、企業に割り当てる奉加帳を回すというようなことを昔はよくやっていました。もう何十年前も前は。そういうやり方では、企業もお金は出せませんよということで、ビジネススペースで受益できる企業が資金負担していくようなことをメインになるような形でないと、しんどいのではないんでしょうかというような話を経済3団体もしたのだと思っております。そういう点からすると、今回の報告書の中の7ページ以降のまとめ方というのは、特に9ページは具体的に色んなことを書いていただいている、今までよりはより具体的な話になっているのかなと思っております。どこまで行っても個別企業のメリットの判断というのは、我々が代弁するには限界がございますので、こういう例示とともに、私企業がメリットを感じるようなアイデアはどんどん取り入れるというようなメッセージそのものを、そういうやり方に切り替えるんだよということまで、読み取れるようなメッセージをもう一歩踏み込んで書いていただければありがたいなと思っております。

#### ○澤田部会長

はい、ありがとうございました。なるべく、もう少し具体的にということだと思いますが。他はいかがでございましょうか。はい、どうぞ。

#### ○江原委員

企業に対するメリットについてなんですが、これはあくまでも参考としてお話しさせていただいたのですが、今PPP方式というのがあります。政府と民間がいっしょになってインフラ整備などに投資をすることなのですが、万博会場内の施設の建設や万博関連インフラ整備などで、こうした方式を考えてみてはどうかと思います。事前に具体的な建設案などを出し、企業の参加を入札などで募るということになると思います。PPP方式では、例えば、跡地利用など建設後の収支がとれるのかといった問題もあります。公共という点で、やや制限が出てくるかと思えます。例えば、投資した企業がつくった会場内外の建築物やインフラの万博閉幕後5年間とか10年間とかの使用権などをどうするかといった問題などが指摘できます。主催者側と企業サイドでコンセンサスが得られるようであれば、PPP方式は機能するのではないかと思います。万博に投入される公的資金が節約できる上、企業にも、インセンティブやメリットが出てくる可能性はあると思います。PPP方式で、万博に参加するというのは、パビリオンをつくって参加するのと同じだと思います。PPP方式が

万博の理念に合うのであれば、PPP 方式を使った初めての万博として、大阪万博は万博史に残ると思います。

PPP 方式は、インフラ整備などで、世界の主流になりつつあるようです。恐らく、万博でも今後検討されてくるのではないのでしょうか。

○澤田部会長

はい、ありがとうございました。それでは、大阪市の坂本理事から何かございますでしょうか。

○田中委員(代理:坂本経済戦略局理事)

副市長の田中の代理で、大阪市理事の坂本でございます。今回のまとめた内容ですが、各委員のみなさまといっしょですが、全体としてはこの間の議論を踏まえて整理されたものと受け止めております。ただ一点、先ほど具体的な事業展開のところでご指摘がありましたけれども、特に 8 ページ、9 ページあたりで、具体的展開分野例なり、展開のイメージということで、今回かなり詳細に、具体性をもって記述をいただいているということです。この辺りは今後可能性を非常にふくらませる、広がりをもたせることができるような内容だと思いますので、すごくいい形で記載頂いているのかなと評価しております。今後、先ほどご意見がありましたが、さらにこれをどう具体的に進化をさせていくのかという辺りが、今後の一つのポイントになるのかな、と思いますので、その辺もあわせてともに進めていく必要があるのかなと感じております。以上でございます。

○澤田部会長

ありがとうございます。事業展開という意味で言いますと、万博というのは、関西ですと大阪万博のことを言われるんですけど、あれはモントリオールの万博をコピーしたというか、よく勉強されたということなんですが、あれから、パビリオン並べて、比較的エンターテイメント的に映像で見せるという手法がスタートしています。みなさんご存じのように、万博というのはパリで始まったわけですけど、その当時から、どちらかといえば、事を見せるというよりは、物を見せると、事を含めて世界で一番新しいものをそこにより集めて、そこに多くの人が集まって、いいものを共有して社会を進めるという形でスタートしたわけですね。それがメディアがどんどんどんどん発達する形で、それが現物じゃなくてもいいだろうと、それが産業の進歩がどんどん早くなった時に、万博を待たられないので、例えば、車だけ取り出してモーターショーやりましたとか、どんどんそういう形で発展分化したと思うんです。国際日本文化研究センターの副センター長の井上さんは、万博の研究をご一緒させて頂いているんですが、「万博から逃げて行ったものを見ると、万博というのは何なのかがわかる」と。例えば、モーターショーとか、それからいろんな展示会、オリンピックもそういうところがあるんですけども、そうだと思うんですね。ただ、20世紀の後半になって、特にインターネットが発達して、博覧会は情報化社会に、わざわざ遅いコミュニケーションで集めることに意味があるのかという大批判を浴びて、改革を求められるようになるわけですけども、そういう意味で言いますとここに書いているような、9ページ目に出ている日本ゾーンで、日本からの提案と書いていますが、各企業がパビリオン並べて映像で未来を、言ってみれば夢のような未来をという

ことではなくて、具体的にこれに向けて研究開発を重ねて、それをここに集めると。そこに日本中の人、世界中の人が集まって、これはいいねということで、製品が普及する。当然、健康というのは社会システムと一緒に話ですし、一人ひとり個人の理解がベースになりますので、前にお話ししたように、だいたい国民の15%くらいが来場し認識を変えれば、大きく変わっていくだろうと。そういう意味では、国内国外において、これまでのような映像で夢のような未来を見せるということよりは、できる限り、これに向けていろんなものを開発して、その最先端のものを集めて、そこを体験的に見てということが、私は良いのではないかと思います。先ほど、冒頭で事務局から話がありましたように、世耕大臣の方からもオリンピックの次として、万博ということが出ておりますし、オリンピックというのは基本的にはスポーツイベントですが、万博というのは6か月やる仮設都市を作るようなものなんです。会場というのは。ということは、健康をテーマにしたまちづくり、ものづくり、それを体験して実証していくという意味では、6か月というのは、非常に十分な時間だと思われまじ、そういった6か月だけやってみるというのは、非常に重要な、世界的にも大きな実験都市が6か月間出来上がるという概念は非常にいいことではないかと私は個人的に思っておりますので、先ほどから、各委員の方からもう少し突っ込んだ形でというご意見がございますが、まさにその通りだと思いますが、そういった大きな万博の、100年以上の歴史も見つつ、ちょっとこの数十年の大きな流れの中で言うと、少し変更してしまったところをまだ戻してですね、万博が本来できる、今の人類社会に何ができるのかという中で、社会のシステムとか製品を日本が開発して世界へ提案をしていくということは、万博の使い方として最も新しい使い方になるのかなと、私は個人的に思っている次第でございます。

そういう意味で言いますと、あちらこちら読ませていただいて、不正確な表現があるのではないかなということで、例えば、1ページ目の一番最後の4行にどちらかというIT系のことが出ていますが、玉井さんがいらっしゃるからということではないんですが、ロボット系とかそれに並ぶいろんな技術があると思うんですね。今、未来を作る技術というのが何があるんだろうかということをもう一度よくピックアップして、1つに偏らないように書かないと、なんとなくIT系のことばかりが言っているぞという話になると、それ以外の企業の方はおかしいんじゃないかということになると思いますので、その辺は知識のある方に聞いていただいて、経済産業省が一番詳しいんじゃないかと思いますが、並べたほうがいいのかということ。それから、5ページ目の基本理念に基づいたテーマの考え方で、公衆衛生対策と高度な医療技術というふうになってるんですが、これも医療に寄りすぎているような気がしてですね。公的医療保険制度も言ってみれば長寿を作った確固たる日本が誇るべきシステムだと言われておりますし、生活改善みたいなこともすごく重要ですね。それは、公衆衛生というところから少し外れていると思いますので。日本がこれだけ長寿になっている理由を並べるんだったら、例えば4つ並べるんだったらこれだよということを専門の方にちゃんと言っていたら、世界的に見てもそれは蓋然性があるなというものをきちっと作られたらどうかというふうに思っております。そういう意味で言うと、私はサブテーマで社会が落ちちゃったのが残念でしようがないんですが、社会のあり様というのはWHOの定義からしても健康を作るうえで重要な話だなと思ったわけですが、なぜ落ちているのかなと、残念だなと思いながら、ちょっと言い訳をして頂くとありがたいと思いますが。

## ○事務局

あくまで試行錯誤の途中だという形でご覧いただきたいんですが、このサブテーマをご覧いただいたときに、多くの皆様から、科学の技術の発展、文化の多様性の尊重、地球環境の保全と共生ということはわかるんだけど、もう1つ、安定した生活の実現というのが具体的に何を指すのかわからないという意見を多々頂きました。それをいろんな先生方の意見を分析しまして、なぜだろうという形で、事務局の方で検討してみたんですが、おそらく安定した生活、それからいろんな生活モデル、ライフスタイル、そういった生活そのものが、すべてのこういった科学、文化、地球環境とのかかわりを持っているからではないかという結論になりました。ということで、サブテーマ案としては3つの柱がありつつ、それを貫くものとして生活というものがあるということをうまく表現していく形で重要な要素を表現していく方法を探っていけないかという、その途中でございます。

## ○澤田部会長

途中なので、ぜひとも復活頂くといいなと思っておりますが。要するにコミュニティというのは非常に重要な要素だと思います。社会保険制度もありますけど、やはり人間というのは社会的な生き物で、人とどう関わり合いを持ちながら健康を保つのかというのは非常に重要なポイントだと思います。それは科学技術とか文化とか、地球環境とかとはちょっとカテゴリーが違う話なので、生活というよりは社会のあり方、コミュニティみたいなことをサブテーマとして立てられた方がいいのではないかという気がしております。発言を頂いていないのは、あとは井上室長で、そろそろ来るだろと思われたんじゃないかと思っておりますので、ぜひともよろしくお願いします。

## ○伊吹委員(代理:井上博覧会推進室長)

金曜日にいただいて幾つかコメントさせていただきたいと思っております。先ほど委員の方々からご意見ありましたが、これを国際的にどういうメッセージで共鳴していくかという観点や国内的な盛り上がりとか両方を見据えて、理念を考えていけないといけないのですが、一つ人類へのメッセージというところで、健康ってなんだろうという話が先ほどありましたが、WHO の定義には詳しくはないのですが、病気でないことというのではなくて、身体的精神的社会的に良好な状態といった広がりをもったようなもの、そういった共通認識がないとなかなかアイデアも生まれてこないというところがあるので、一つのワードでもどういう共通認識でやっていくのかということを確認しておいた方がいいかなというのが一つ。健康格差っていうと、やや国際的には貧民の方々が、途上国の方々が医療アクセスできないとかそういうところに行きがちなので、健康格差って今世界的にグローバルアクション的に議論されていますが、どういうコンセプトでどう行くのか、健康格差、感染症、長寿時代とありますが、色んなビジネスにつながる健康っていうのはどういう課題があってどうなのか、といったことを理念のところに書き込んでいく必要があるのかなと感じています。そういうのを売りにしながら、何で今やる必要があるんだっていうところで、そういうところも厚めにしていく必要があるかなと思っています。2025 年の大義については色々と考えていただいて、非常にいいかなと思います。あと、国際博覧会を開催する意義というところで、日本でというのは割と簡単で、高齢化社会の先進課題国としての日本というのは割と言いやすいんですが、なぜ大阪かというところは。

愛知のときは非常にわかりやすく、澤田部会長の方が実際にかかわったので非常にお詳しいかと思いますが、サブテーマにもかかわってくるが、あのときはエコ・コミュニティだとか、自然をあれする技とか、そういうところからも、なぜ愛知なんだと、なぜエコ・コミュニティという、愛知は自然と共生する里山というものを瀬戸市にあったと、だからそういう意味では愛知にはそういうポテンシャルもあって、デモンストレーションするシティとしては最適だとか、そういうポジティブな感じで、誘致するときにも宣伝していったというところがあるので、もうちょっと、先ほどもご意見がありましたが、課題があるからって、一番全国よりも低くて、ポテンシャルが高いというような言い方よりは、もうちょっとポテンシャルがあるところで、何かもうちょっと前向きな表現できないかな、もうちょっと歴史的文化的な背景から何か言えないかなと思っています。アイデアがあるわけではないのですが。あとは一回万博をやった経験からなぜ二回目なんだというところも必要かなと思っています。あのときは人類の進歩と調和ということでやりましたが、あのときは経済発展と未来を語るというところであれを大阪でやって、半世紀たって色々グローバル化してきて、経済発展してきて、色んな問題を抱えていると世界が、その中でもう一回大阪に立ちかって経済成長した中で抱えている問題をもう一回大阪でみんなに提示しようじゃないかとか、なぜ大阪なのかというのをもう少しグローバルな視点と国内の関係者の視点とをもう少し優遇して、その方が何か盛り上がる感じもしますし。笑いかとかいうのもあるかもしれませんが、もうちょっとコミュニティ的な。私なんか東北の田舎から出てきて、東京に来ると割と人との接点が少なくてさみしい感じがあるのですが、大阪に来るとなんとなく、私の田舎の方もそうですが、わりとお節的な人も多くて、コミュニティが、人と人の触れ合いが非常にあるなというところもありますけど。そこをどこまで書き込めるかは別として、文化というところの、歴史的にもつ文化的な背景とか、そういうのもなぜ大阪でやるんだ、というところの国内的なセリフもありますけど、海外的なセリフというところでも、もうちょっと何となくネガティブ・トーンというよりは、前向きトーンで色々書くのもいいかなというのが率直な感想でございます。あと6ページのところで、サブテーマというのは、こちらは事業展開とも絡んでくるのですが、世界の人たちが、我々どう関与していったらいいんだというのをある程度イメージつきやすい感じで、やはり言う必要がありまして、先ほど申し上げた愛知の場合は、自然と共生のコミュニティをどうやってつくるの、それをみんなで出し合おうよというのと、じゃあエコを実現するための技術と技とか文化って何なの、というようなセカンドテーマであって、そういうのをみんなで出し合おうよというのをしながら、みんなそれに共鳴して、みんながそれを持ち寄って、色んな物を、シナジーを生んだというのが一つの万博の姿だったと思うんですけど。すごくまとまっていて、私的にはいいかなと思うんですけど、文化の多様性の尊重という、何かなという。自分で治す、それをサポートする技術が一つ目だとすると、先ほど澤田部会長からもありましたが、文化というのはややコミュニティ的な要素があるので、どういう都市とかコミュニティをつくっていくんだというのが二つ目で、新しいコンセプトとして地球環境とどうやって寄り添いながら人間の均衡を守っていくんだというのが三つ目でとか。もうちょっと新たな視点として、そういう視点もあるのかなというのが、ジャスト・アイデアで色々申し上げているところがありますが、ということもあるのかなと思います。それと、サブテーマのところは、健康というところは冒頭申し上げた広がりをする、愛・地球博もそうでしたが、90年代は環境とか温暖化交渉とかいうのに携わっていましたが、環境っていう価値観をどう

やって生み出していくかというところがあって、それに日本は割と成功したのかな、要はエコという概念ができて、それに対してビジネスができて、関係ないと思われる企業も CSR という形で、エコというのは企業価値を高めるんだとかですね、そういうところに全部 90 年代からの活動で 2005 年の愛知というところで、ある程度具体的なコンセプトを示して、それが今やネクタイなんてしていませんけど、クールビズにつながってとかですね、商品だったり、一つ概念を生み出したり、あと各企業さんが CSR をしたり、という、そこでみんながメリットがあるという形に持って行ったので、健康っていうのは非常にポテンシャルが高くて、そう意味では逆に健康がかっこいいとか文化であるみたいな、そういうのが、文化的に私が大好きな大阪というところで、非常に色んなポテンシャルある中、発信できたらなあということを思っています。そういう意味で、先ほどビジネスという観点もありましたけど、何か別に供給者側サイドばかり考えるのではなくて、要は CSR という観点もありますし、あとは日本政府全体で働き方改革っていうのをやっていますけれど、従業員の健康をいかに守るんだとかですね、それは企業価値を高めるという意味で非常に全経済界が一体となって進んでいるところがあるので、全業種にかかわるところでもあるので、みなさん住民の人が健康になる、イコールみんながメリットがあるというですね。逆にかかわらない企業とか主体がないとかですね。そおいうところではあると思います。ただ、その中から価値観をどう醸成していくとか、そういう意味で先ほど色々産業界の方からもご意見いただきましたが、逆にこういうのをつくっていききたいとか、こういうカルチャーをつくっていききたいとか、こういう企業価値形成をしていききたいとかですね、そういう中から公的主体があとは色々交えながら、こういう場でいろんなシナジーを生んで、いい理念ができればなあという気がしています。こういうので、大阪府さんが検討会をしていただいて、色んなメンバーがいて、そういう中でできていけばなあちょっと期待はしているところなんですけど。以上です。

#### ○澤田部会長

ありがとうございます。

健康の話、環境の話は前にちょっと触れましたが。その愛知万博で決定的にひとつのライフスタイルとか方向性が見つかったと思います。

万博のいいところは、その企業のトップの方って、意外とそういうそもそもの話ってあんまり考えなかったりするんですね。なんだけれども、例えば、今回は「環境テーマで、我が企業がパビリオン出すぞ」みたいな話になると、「えっと、環境ってなんだっけ」みたいなことを勉強し始めて、「これは、我が企業のグループの価値とどう結びつけるんだ」という議論が促進されて、そこからトップの人も新しい感覚を持つし、それが普及していくということがあると思います。なので、社会のひとつのトレンドが定着していくありようが、愛知万博では明確にその前とその後で環境意識というものが変わったと思います。来場した方が変わったと意識していなくても変わっているところが万博のすごいところで、間違いなく変わっているんですけども。なんとなく見た人は「僕は前々から環境というのはとても大事なことだと思っていた」というふうに変わっていくものだと思いますので。それはそういう意味でいうと、来場者も設計する方も、その社会全体がその価値を認めて出していくというような、大きな社会的な事業というか、

文化的な事業というふうには思います。また、最近「健康経営」ということで、ずいぶん企業さんも価値を感じていらっしゃるし、単に社会保障費が減るぞということ以上に、豊かに暮らすという意味では非常に重要な視点でございますので。策定までに関しては、もっともっと時間をかけて、いろんな角度から係わり方というか、広がり感を見てく。もしくは、愛知の時もそうなんですけれども、「このサブテーマをどう理解しようか」とか、「このテーマをどう理解しようか」という方が、いろんな立場でいろんな議論をするんですね。その中からどんどん深まっていくものなので、そういう意味でいうと大きなカテゴリーの整理がしっかりできていることが、現状ではすごく重要だというふうには思います。その定義がしっかりできていないと、例えばさっきの健康という言葉の定義がはっきりしないと、人によってAの健康とBの健康、違うもので話をしていると、全く議論がかみ合わない。これだと万博もうまくいかないの、まずその「健康」の定義をしっかりとる。それをサブテーマに分けた時に、なるほど、これは議論はいろいろあるけれど、大きく言うところということなんだということが、その後の展開が広がりを持ち、縛りから広がりを持つという形のサブテーマをどう設定していくのかということが重要だなというふうには思います。そういう意味でいいますと、先ほどの技術の話をする時も、漏れの無いように、4つなら4つ示す時に、きちっと偏りのない形でしっかり示していくということも重要なのではないかなというふうには思われます。

まあ確かに「なぜ大阪なのか」というのは、非常に難しい問題でございますが。歴史的には道修町はじめ薬種問屋がスタートしてる。北前船のきつと集積地だったということもあるんだらうと思いますが、そういった歴史もちょっと掘り起こしながら。

それから最近のiPSを中心とした医療の発達で、かなり海外の研究施設も関西に戻ってきているという話もございますので、そういうことも拾いながら行われたらどうかということもあります。また、大阪大学も国の支援で先端の研究センターを持つことが最近検討されているようなので、そういうことも掘り起こしながらお示しいただけたらいいかなというふうには思います。

ただ全体的に、おそらくみなさん気になっているとしたら、こういうのって書いていくと、健康ってどうしても病気じゃないことみたいな話になっていって、そっちのが理屈が通りやすいし、分かりやすいんですけども。ややそれだと暗めというか、その非常に狭い話になってしまうので、どちらかという私たちの生活が豊かになっていくんだということをベースに、何が課題で、何を求めていくのか。課題は指摘しつつ、「私たちが目指すのは、こういう世界を目指すんだ」ということをやっぱり出さないとダメだと思うんですね。そこをどういうふうに書くのかということが、この理念を書くときに重要であって、課題の指摘だけだったら理解されにくいですね。それを超えてどこを目指していくのかということが書いてあると、課題がこれで、日本は実現しようとしていることは、こういうことを実現しているんだなということが基本理念に書かれて、それを受けた形でテーマが出ていて、そのテーマを分解するとこういう大きくこのようなカテゴリーがあるんだなと。そうすると企業の人も「ここにはわが社は行けるな」とか、参加国でいうと、「うちはこれも自慢ができるぞ」みたいなことが出てくるとよいのではないかなというふうには思っております。

色々のご意見は頂きたいところではありますが、いかがでございましょうか。何か言い足りないぞという方がいらっしやるととてもありがたいんですが。時間もまだ 25 分ほど余っていますし。いかがでございましょうか。

やや部会長として余計な話ではございますが。なかなか人間というのは、立場と視点というものがあまして、事務局の方は一生懸命考える訳でございますが、あくまでも行政でございます。行政さんというのは、行政の社会でルールで生きておりますが、どちらかという企業は企業の理屈で生きています。そういう意味でいうと、万博というのは前から申し上げているように、形がそんなに決まったものではありません。ただそれをどういうふうになんかそれぞれに活用するのかというのを早めに議論を始めた万博というのは、今までなかったと思います。なので、できるだけ早めにいろんな立場の人が、「こういうものであれば、私たちはメリットがあるぞ」ってことを早めに考えていただいて、BIEのルールは絶対に守らないといけないんですけども、BIEとうまく協議をしながら、それぞれが有用な価値をつくるのが大切です。先催の型を踏襲しすぎると「パビリオン並べて作るんだろ」みたいな話になっちゃうんですが。そうではないものを考える時には、早めにそれぞれの立場から「万博というものを行うとしたら、こういうものがないんじゃないんだろうか」とか「こういうことは出来ないんだろうか」ということを考えるということが、おそらく新しい博覧会、もしくはこの時代に博覧会をやるときには、非常に重要な姿勢なんだろうと思います。そういう意味でいいますと、経済界からの視点で「こんな万博は出来ないのか」みたいなご提案が今後あったらいいんじゃないかなと。私は部会長なんで、そんなこと言えませんが、そうあったらいいんじゃないかなと思います。また、ここにはおりませんが、やっぱり市民というのも非常に重要だと思います。府民・県民・国民、そういったその立場から見た時に、万博というのは、単にチケットを買って見に行くものではなくて、先ほど増田委員からもありましたように、実際にそこで体験して自分が健康になっていくぞという時に、より積極的に参加する万博というのはどういうものなんだろうかと。やっぱり市民・県民の立場から考えるとどういうふうに見えるのか。そういった多様な立場からの意見が、ふつつつと上がってくると、おそらく 9 年後の万博が非常にいいものになるんじゃないかなというふうには思います。

今、私たちが議論しているのは、BIEに手を上げて国際社会から認められて、「よし、お前は万博やっていいぞ」といっていただくためのものでありますが、それと同時に並行にいろんなセクション、多様なセクターの方が万博というものを積極的に捉えて、今までにない万博、もしくは自分たちにとって意味のある万博というのは、こういうものだと、新しい形を積極的に考えられるところが非常にいいことだと思いますし。今まで世界中、それは出来たことがないので、それを関西・大阪が初めて世界に問うというのは、かっこいいんじゃないかなというふうには思っております。理念部会は今回が最後だということなので、言いたいことは言って終わりにしたいなと思っておりますが。

何かほかにもございますでしょうか。どうぞ。

○出野委員(代理:野島産業部長)

最後ということで、これから、企業の声もということで、お話あったんですけども、やっぱり企業にも参画してもらって、メリットがあるっていうふうに思ってもらわないと、これは冒頭で児玉常務が言われたとおりなんですけれども、そのためには、本当にビジネスだけ考えると、健康医療の見本市とか、たくさんあるんです。BtoBとか。なんで万博に出さないといけないだ、見本市に出した方がいいじゃないかと。そういうふうになってしまうような万博にして頂きたいなあというふうに思っています。そのためには、今、井上室長からもありましたけれども、この万博を通じてどういうふうになっていくのかということをしてできるだけ広くとらえて、やっていくということが重要なじゃないかと思っています。今、環境の時のお話なんかもありましたけれども、健康系銘柄とか、経産省さんの方でやっておられますけれども、例えば、ああいうのもこう、ひとつのきっかけに、日本がスタンダードになって、ISOなんかみたく、ISOは日本ちゃいますけども、こういうのが、世界のスタンダードになっていくというのが生まれていくとか。それから、地域的な広がりとしては、まだ場所は決まっていませんけど、湾岸エリアで開発されるようになったら、このエリアが、こういうふうに、誰もが、障がいのある方も誰もがいきいきと暮らせるような街づくりが進んでいくというエリアになっていく。そのためには、事業開発としての可能性があるんだということを示すとか、この後をどうしていくのかを理念として示さない。なかなかどうしても見本市とか、健康医療でいっても世界では5つくらい大きな見本市がありますから、単純に健康医療で、医療機器だ薬品だといっても、そっち側に出した方がビジネスになるという話になりますので、ちょっとそういう広がり、後をどうするのかということが打ち出されれば、いいかなと思います。以上です。

○児玉委員

今のことにも関連するんですけども、冒頭ありましたスケジュールでいきますと、大阪府案をまとめるのは、非常に時間が無いなかでやらなあかんわけですのでね。今、野島さん言われた話とか、先ほど江原さんが言われた話、大阪市さんが言われた話だとか、経産省の室長さんが言われた話、みんなビジネスに関連する切り口を持って言われていますけれども、どれが企業、健康系もそうですけど、どれが個々の企業にとってメリットと判断されるかはバラバラで違うと思うんですけど、先ほども言いましたとおり、私企業がメリットを感じて、こういうことをやってくれと言った場合に、それは経済団体が代弁するより、私企業の判断になってきますんで、私企業のビジネスとして健康経営なのか、供給者サイドのビジネスなのかわかりませんが、何らかの形で企業がメリットと感ずる場合に、こういうことをやってくれというのが出た、それを前広に受け止める方向性等のをここであげて頂ければありがたいと思います。

○澤田部会長

ありがとうございます。いかがでございますでしょうか。どうぞ、玉井さん。

○玉井委員

児玉さんが言われた企業への意見を吸い上げる入口を付けておいて下さいというのはごもっと

もやと思うんです。国であるとか、この地域であるとか、企業とか、みなさんがこれに参加するわけですよ。ここにおられる方たちが納得してこれをみな支えるという仕組みじゃないとうまいかなと思うんです。例えば、私、小さな会社やっていますけれども、具体的な話で、私がこう考えているというのを皆さんに聞いていただいて、たぶん、そういうやつをいっぱい積み重ねていったら方向性が出るのかなと個人的に思うんです。私が万博をやることの委員をさせて頂いて、私の関連する分野やったらこういうことがメリットだなと感じていることをお話したいと思います。私はロボットをやっております、特に介護ロボットをやっておりますので、私は、今日本の社会はお年寄りが増えてきて、若者が減ってきている。若者の負担がどんどん増えてきて、お年寄りも自分たちが本当にこんなたくさん仲間が増えてきて、将来どうなるんだろうと、保障が受けられるかどうかを、非常に心配している社会だと思うんです。私がいろんな方にお話しているのは、若者が減ってきた、お年寄りが増えてきたけれども、お年寄りを2つのグループに分けてくださいと言ってるわけです。本当に昔と違って、人生50年じゃなくて、人生80年の世界で、このときくらいは90年になっていますね。その中で、当然生き方とか、ライフスタイルというのは違うはずなんです。今までみたいに60になったら自動的に定年になるとか、そういう概念自身を変えないとおかしい。そうすると、例えば、具体的に言いますと、60歳以上、65歳以上でもいいんですけども、ぴんぴんしているお年寄りはたくさんいらっしゃるんですよ。そんなお年寄りを、お年寄りとして括ること自体がおかしい。だから、2つに分けてください。手間のかかるお年寄りと、元気なぴんぴんしているお年寄り。ただし、ぴんぴんしているお年寄りも、ちょっと無くしたものがあつたんですね。力ですね、もう一つは頭のキレといいますか記憶力とか少し衰えていますね。僕は、力のないところはロボットが手伝いたいんです。ロボットは力持ちですから、人の力が衰えたところを手伝いたい。頭が、能力が少し衰えてきたところは、ITが手伝えると思うんです。いろんなものが便利になってきました。そうすると、元気なお年寄りに武器を持たすのと一緒だと思うんです。武器を腰にぶら下げて若者と一緒にやれるんだと。彼らが自信を持ったら、社会参加ができるじゃないですか。社会参加できるということは、たぶん生きがいとか、多少小遣いを稼いで、いろんな事に貢献ができる。これはたぶん、健康寿命が延びると思うんです。そうすると、いろんないい事が起こってきて、お年寄りが増えること自身は問題だけれども、それをちゃんと解決した社会がここにありますよというのを僕は見せたい。そうすると、我々は、会社としては、介護ロボットがこんなにある社会を提示ができて、ビジネスにつながる。だから僕は参加したい。こういう論理になると思うんです。ですから、先ほど言った元気なお年寄りを作った時に、ほかにもいろんなビジネスができると思うんです。それをみなさん考えてもらって、おれはここでこんなビジネスの形態を見せたいんだと。そういう方にどんどん参加してもらったらいいと思うんです。実は上海万博の際に、私日本産業館を手伝いましたけれども、あのときは企業の合同パビリオンでした。企業がお金を出して、自分たちのテーマを持ち寄って、パビリオンを形成していた初めてのケースでした。結果的には黒字になってうまいこといったんです。企業にとって、やり方によっては、参加して利益を受ける仕組みがあると思うんです。そういうことをどんどん考えて頂いて、この会としてはそういう人をどんどん受け入れましょうという姿勢を保っておいたら、いいかなと思うんです。

## ○澤田部会長

ありがとうございました。構想で細かいところまでは具体化はなかなか難しいかと思いますが、構想は構想でまとめて頂きつつ、継続的にいろんな企業さん、府民も含めて、いろんな方が参加できるボードというか、そういうものを継続的に持ちながら、いろんな参加者を増やすと良いというご意見だと思います。今の玉井さんのお話でいうと、原研哉さんがアートディレクターで日本デザインセンターがお台場でやっていたハウスビジョンというイベントがありました。少しデザイン寄りなんですけれども、実際にそれぞれのテーマで家を作るんです。実際には住めないんですね。ただ、非常にITを駆使したとか、クロネコヤマトさんが考えるとか、それぞれテーマでポンと振った家ってこんな感じというものを実際に作ってました。思いつきあるテーマに振って実際に形にしてみると、そこを体験することの価値ってすごくあるんですね。実際に来た人の30%くらいは外人だったと思います。中国でもかなり話題になったと言っていました。ハウスビジョンのあり方、新しい家を提案する、単純にいますぐに製品じゃなくて、今後の10年20年先を見こした、一つのコンセプト住宅を作る。それをみんなで見て、共有化して形にしていく。だから、マーケットに入る一歩手前のものを実際に作ってみる、非常に新しい動きだなということで、中国のデザイン系の方からもかなり注目されたと聞いております。ああいったものがないのかなという気がしております。野島さんおっしゃるように、井上さんもおっしゃている、万博から逃げていったもので、そういった健康機器、医療機器の展示会がいっぱいありますので、そういうものとは違うもの、なおかつ、ある仮想、未来都市を実際に6か月間作る意味で、世界と日本とどういうものが意味があるんだろうかと、実際に参加する企業の方からご意見を頂きながら、それを大きなコミュニティとしてまとめていくと作業が同時並行して動いていくことが、なんとなく私はいい万博を作り出すと思うわけでありまして。いずれにしても、万博は楽しくなきゃいけないんですが、楽しくするには得意な方がたくさんいらっしゃるの、それはどんどんやればいいと思うんですが、何のためにどういう仕組みを作るのか、事業構造そのものが重要だし、それに向かうためのコミュニティ、企業を含めたコミュニティをどう形成していくのかということが、万博に骨を通すための非常に重要な作業かなと思っております。

ちょうど後10分ということで、ちょうど時間になってまいりましたので、だいたい議事はこれでよろしいでしょうか。では、これで第2回の理念部会はこれで閉会ということで、第3回は開かれないうことで、お名残惜しゅうございますが、ここで事務局にお戻いたします。

## ○事務局

企画室長からあいさつ

事務連絡

【閉会】